

執筆者一覧（掲載順）

小松原由理	上智大学・非文字資料研究センター客員研究員
前田孝和	非文字資料研究センター客員研究員
余瑋	神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
加藤里織	神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科非常勤助手 非文字資料研究センター研究協力者
吉村竜	日本学術振興会特別研究員
鍾劍峰	南越王博物院 副研究館員
成田紅音	非文字資料研究センター職員

■編集後記

今号は論文3点、研究ノート2点、翻訳1点の掲載となった。各論考の対象エリアを拾うと、ドイツ、日本・沖縄、中国、ブラジルと地球儀を一回転する。テーマもカバレット、神社、民具、鳥居、栽培技術の経験知などと多様だ。小松原由理氏が扱った「カバレット」について、私は知識不足で今回初めて知った。そのビビットな内容は本文を読んでもらうとして、自分も企ての仲間に入りたくなった。前田孝和氏は、近代沖縄神社神道史をめぐって資料収集の成果などを紹介している。地道な基礎作業だ。余瑋氏は中国民俗学界における「民具」という用語の受容から研究史を整理した。そのなかで、神奈川大学ゆかりの民俗学者との関わりも指摘されていた。加藤里織氏はブラジルにおける鳥居イメージについての論考で、神社・鳥居研究の新しい切り口になると感じた。吉村竜氏はブラジル日系人の農業従事者が栽培技術を共有していく過程を扱っている。地域社会の維持にとって核心な課題だろう。成田紅音氏は鐘剣峰氏の「広東神社考」を翻訳し紹介。中国研究者の研究を仲介するありがたい仕事だ。

『非文字資料研究』が掲載すべき論考とはどのようなものか。投稿論文や査読などをめぐり、編集委員会でもたびたび議論になっている。しかし、多様で意欲的な論考が毎回寄せられることを考えれば、それぞれの模索と日々の持続的な議論、それを踏まえた『非文字資料研究』自体の積み重ねから自ずと答えが見えてくるようにも思う。今号も読みごたえのある一冊として送り出すことができた。(後田多敦)

■表紙説明

表紙図版は、カバレット「11人の死刑執行人」の立ち上げ人の一人、エルンスト・シュテルンによるカリカチュア集『妄想狂カフェ』(1902年)の一ページである。ここには、「11人の死刑執行人」の花形歌手、フランク・ヴェデキントと、彼のそこでのヒットナンバー『ブリギッテ・B』に登場する男女、及びその歌詞の冒頭部分「バーデン地方からやってきた若い娘」が描かれている。シュテルンは、当時の市民たちの性道德の崩壊を曝露するようなヴェデキントの悪魔的な小唄と、実際はリュートにリボンを飾りたて、かわいらしく観客に媚びてもいるヴェデキントのダンディズムや、そのなんとも憎めない風貌の滑稽さを、実に巧みに捉えていると言える。

裏表紙図版は、パリのキャバレー「シャノワール」の模倣として誕生したカバレット「11人の死刑執行人」の店内風景である。この絵は、シュテルンと同様に、この店の立ち上げ人の一人でもあるヴェイリー・エルテルによるスケッチで、彼はここで、頂上に斧と頭蓋骨がついた「晒し柱」が置かれた一角を、店一押しの心地よい場所として紹介している。この柱に実際に貼られていたのは、当時の政府が発行した検閲文書であり、旧態依然とした市民的価値観への異議申し立てこそが、このカバレットのコンセプトであることを示したものであろう。(小松原由理)

非文字資料研究 第24号

The Study of Nonwritten Cultural Materials No.24

発行日	2022年3月20日
編集・発行	神奈川大学 非文字資料研究センター 日本常民文化研究所 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/
印刷	共立速記印刷株式会社
雑誌コード	ISSN 2432-5481